

令和4年度 学校自己評価システムシート（学校法人佐藤栄学園 さとえ学園小学校）

目指す学校像	教育理念を具現化し、「本当のリーダー」を育てる学校 子どもたちの「ふるさと」になる学校
--------	--

重点目標	<p>1. 本校教育の基本方針に基づき、計画的且つ円滑な教務・校務業務の遂行。 ①進路対策 ②児童募集 ③受験に向けた4教科の指導の充実</p> <p>2. 「本当のリーダーを育てる学校」を目標として、その具現化に向けての教育活動を展開する。 ①学習環境の整備②特色ある教育の推進・充実③豊かな人間関係づくりの推進</p> <p>3. 学校と家庭との連携「共育」を軸に、信頼関係を保つ学校運営。 ①保護者ととともに児童を育てる「共育」の実践②特色ある教育の推進・充実</p>
------	---

達成度	A	ほぼ達成
	B	概ね達成
	C	変化の兆し
	D	不十分

学校自己評価						
年度目標				年度評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	教務・進路入試センター・研修等の分掌（担当）において業務が進められているが、学校運営の根幹を担っている上記分掌が効率的に行われているかを確認。また、その他の分掌・係との連携によって、学校運営が円滑に行われているかを確認。	分掌ごとに業務計画・学期ごとの業務報告に評価項目を具体的に記載。	年度初めに各分掌が年間計画を立案各学期末に業務報告を行い、目標達成度、現状における課題を見つけ、その方策を立てて次学期の業務遂行に反映させる。	各分掌が計画的に業務を遂行。また、学期末ごとに現状を把握し、次学期には改善を行った。	B	30周年に向けての研究・研修推進体制の充実 「ふるさと」になる学校づくり
2	教科会・特色教育・放課後教育・課外活動・研修・児童会等の各分掌において、「本当のリーダーを育てる学校」「突破力を身につけさせる」を念頭に置きながら、教育目標の実践と学習指導と生活指導の一体化を推進することを通して、子どもの内在する可能性を拓く。学習指導要領の実施に伴うカリキュラムの見直し。	分掌ごとに業務計画・学期ごとの業務報告に評価項目を具体的に記載。	年度初めに各分掌が年間業務計画を立案。各学期末に業務報告を行い、目標達成度、現状における課題を見つけ、その方策を立てて次学期の業務遂行に反映させる。 公開研究会や校内研修を行い、日々の授業改善、教育技術の向上を図る。	各分掌が計画的に業務を遂行。また、学期末ごとに現状を把握し改善を行った。 新型コロナウイルスの感染症拡大の影響により計画の変更を余儀なくされたが、カリキュラムの変更を行い対応した。	B	新学習指導要領に対応した教育課程・ICTの積極的活用『カリキュラム』の検討・作成。体験学習の充実。 教科指導のブラッシュアップ。 児童の基本的行動様式の徹底 教育相談体制の充実
3	保護者に対する様々な情報の発信、保護者の参加する学校行事、保護者会活動の充実。 学園後援会活動に際して、保護者・教職員により一層の積極的な活動参加により信頼を保った学校運営を行う。	分掌ごとに業務計画・学期ごとの業務報告に評価項目を具体的に記載。	年に2回の保護者との個人面談での意見や、授業参観日に行なわれるアンケートを参考としてこれまでの各業務の現状を修正。	新型コロナウイルスの感染症拡大の影響により計画の変更を余儀なくされたが、ICTを活用し保護者へは都度連絡を取り対応した。	B	感染症収束後の行事や保護者会活動の計画・実施 保護者参加事業の工夫
その他	本校に於いては、上記の重点目標のほかに 施設設備・備品管理・情報機器・環境美化・防災教育・学校保健・事務(経理・庶務)などの校務分掌にて独自に目標を設定し、各学期末に業務報告を行い、次学期・次年度への課題・改善策を講じている。					

学校関係者評価	
実施日 令和5年 5月 31日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>①進路対策：今までの内部進学に関する説明会開催のタイミングも適切だし、内容も分かりやすく特に懸念はない。系列校進学希望者クラスの設立により、系列校進学希望者にはより進みやすくする工夫もよいかと思う。進路指導も真摯にしていただけで感謝している。進路相談はより早めに相談出来たら良い。</p> <p>②児童募集：募集人数が近一年来かなり上昇している。説明会、相談ブース、先生たちからだけでなく子供たちによる説明など内容が充実している。デジタルメディア（SNSなど）を充実させていくことは重要。コロナ感染拡大当初、ICT教育をいち早く取り入れた学校として、メディアを通して広く知れ渡った。より多くのメディアに取り上げられるようにすることで募集につなげてほしい。進路結果が、受験させる保護者への意欲へと結びつくと感じた。</p> <p>③4教科の指導の充実：より強化してほしい。児童の意識やレベルにバラつきがあるなか、習熟度別のクラス編成など、でき得る限りの対策を講じることができている。中学受験の拡大とともに塾講師のレベルもかなり高まっているため、習熟度別の一部のクラスには「受験」に特化した体制も今後整えていく必要があると思う。</p> <p>ふるさとになる学校づくりの具体案</p>	
<p>①学習環境：非常に満足している。デジタルを活用した環境や選択の自由度も担保されているうえ、整備に関するフォローアップも充実しており、懸念はない。</p> <p>②特色ある教育の推進：「学」「武」だけでなく「義」に関わる心の教育に対する高い意識も感じられ、また複合プログラムも充実しており懸念はないように思う。こどもたちの発表できる機会が多く、大きな声で発言できた実体験を自信に変えることができた。縦割清掃や異学年交流などで上級生は下級生の手本となるようなふるまいが身に付けられるような環境も良い。iPadによる子どもたちの自己学習力はかなり向上している。</p> <p>③豊かな人間関係づくりの推進：校長講話や随筆の配信等を通じた効果的なアプローチができている。家庭における人間関係づくりからの学びの積み上げが不十分な場合があり、全体最適化がやや遅れている部分もあるように感じる。「共育」のコンセプトに基づき、スクールカウンセラーのより積極的な関与等により、多角的な対応をしていくことの検討も必要。コロナの中でも校外学習や運動会等を実施していただき本当に良かった。外部からスペシャリストの導入等も検討してほしい。</p>	
<p>①「共育」のキーワードがあらゆる場面で使用されている、具体的な活動事例・経験も積み上がってきている、保護者会活動も本格的に稼働し始めていることなどから「共育」の実践は着実に効果的に進んでいる。今後もコンセプトを浸透させ、さらに活動を継続してることが肝要。保護者会役員、クラス委員の方々だけでなく、学校の為、学校に通う児童の為に積極的に参加される保護者が非常に多いと感じる。</p> <p>②特色ある教育の推進：複合教育は非常に特色あると思う。著名人、専門家等から、知識や受験のテクニックだけでなく、社会に出る際に役に立つ、たくましく生きていくための「コツ」「秘訣」などの要素を教育することで、総合力の高い人間を育てるような機会をもっと増やしてもよいと思う。学校周辺の清掃等、ぜひ子供たちと一緒に取り組みたい。近隣の方への感謝の気持ちを持つことが、登下校マナーにもつながるのではないか。iPadを活用した授業も優れた特色のひとつだと思う。参考書や資料をデータ化し、毎日の持ち帰りの軽量化を図るのもよいと思う。</p>	